
守護者・・・？

トライ？

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

守護者・・・？

【Nコード】

N3491P

【作者名】

トライ？

【あらすじ】

根源に触れた不老不死がFateの世界に行く話です。
処女作で不定期更新です。

プロローグ1（前書き）

トライ?です。よろしくお願ひします。

プロローグ1

真っ白空間に

今、自分はある。

いや、真っ黒な空間？真っ赤

な空間？自分の思った色の空間に変わっていく世界。ただ一人で、浮いているような感覚がある。手を動かしてみようとすることも動かない。声を出そうとするも出ないそもそも、体は在るのだろうか？見えるのは、自分の思った色になる空間のみ。ふと、引張られる感覚がするそれに伴い意識も少しずつ無くなっていく。そして、意識がなくなる前に見えたのは、赤と黄色の渦だった。

てから、かなりの時が経った。

あの空間から出

自分は、不老そ

して不死身になってしまった。

それも、不死殺しの概念ですら殺せない程の不死だ。

何故解るか、それはあの空間を出た後の世界で殺されそうになったからだ。

回想

あの空間を出て始めてみた景色は、赤い水しぶきが飛ぶ戦場。

ただの戦場ではなく魔法的なものや、ドラゴンなどの幻想の生物がいる戦場。

そのど真ん中にいるのだから、殺されかけて当たり前だと思っ

ましてや自分は丸腰なのだ、狙われやすいだろう。

魔法や、ドラゴンに直ぐに狙われ引き裂かれた。

死んだ……。

誰だってそう思うだろうが死ななかった。

何度も何度も何度も引き裂かれ、焼かれ、凍らされ、不死殺しの概

た。

不老そして不死身だ、人では既にないだろう。

「ハア……」

ため息が自然と出てしまう。

「……何だあれは」

生物は自分しかいないのに何故蒼い光が見えるのだろうか？

「行ってみるか」

蒼い光などこの世界出など見たことがない、興味もある。

オレは、そうして蒼い光のもとへ向かっていった。

プロローグ1（後書き）

駄文でした。

これでもよければ次もよろしくお願いします。

蒼い光（前書き）

はい、2話めです。

続きをどうぞ。

不老不死って老化で死なないと言っ意味らしく、間違えてしまいました。

メイシー様指摘してくれてありがとうございます。 m ((m

蒼い光

蒼い光の発生元は、何も無い荒野で光っていた。

初めは、一人一人が丁度いい位の大きさで、ドンドン大きくなっていく。

今まで一度も見たことが無い現象。この世界に来る前に見た次元と似ているような気がした。

「もっと、近くで見ると見るべきか？……いや、もう少し様子を見ようかな。」

時間など沢山あるし、生物が居なくなつて始めての現象暇な時間を過ごすには丁度いい。

一時間後

光は相変わらず大きくなるまま唯それだけでそれ以外の変化はない。

「つまらん、これだけか。だが、何も無いよりマシなのだろうな。」

殺し合いの後には何も無くなり、変化も無くなった。

「願いが叶うなら、オレを死なせてくれ。もしくは、この世界からの脱出を……。」

もう自分には、孤独と死ねない絶望しか無かった。

.....その願い叶えて欲しいか？この世界から
出たいか？.....

「なんだ、この声は！それに、出られるのかここから！！」

.....勿論だ。ただし、対価
が要るがな。.....

「ここから出れるなら払う！対価はなんだ！」

.....焦るな。その話はあの光の中で話す。よく
考えて来るんだな。.....

「考えるまでも無い、答えは行くに決まってるだろ」

突然の話で信用なんて出来ないし、危険だが、この世界よりはマシ
だ。

藪を突いて何が出るか、楽しみだな・・・。

そうして、オレは歩き出した。これから始まる物語のために。

「ふむ、よく考えて来たか？此処に来た時点で答えは出てそつじやが。」

オレが光を抜けて始めに見たのは、美しすぎる宮殿といかにも神様
って感じの爺さんだった。

「あ、ああ勿論だあの世界から出れるならな。早く対価を、教えて
くれ。」

宮殿の美しさに少し惚けちまった。それに、行き成り宮殿だからな
流石に驚くぜ。

「そうじゃな。それにはまずお前の存在が如何なっているかを、お
前が知らないといけないんじゃない。」

「俺の存在？オレの不老と不死身と能力の事か？」

それしか考え付かないし、それぐらいしか特別な物なんて無い。

「その両方もじゃが、お前が見たあの空間の方が重大な事じゃな。

あの空間はな、世界神になるための

試練をする場所なのじゃ。お前はその場所に迷い込んだため試練
を間違つて受けてしまいかも、そ

の試練に耐えてしまった。それで、不老と不死身になり能力も出
来た。しかし、不幸にも三つある試練の

内ひとつしか受けねずに出て行ってしまったために半世界神のま
まあの世界に行ってしまったのじゃ

。それで、わしが迎えに来たそうゆうじゃ。此処まで理解できた
か？」

半神ね、だから死なないのか。だが世界神とはなんだ？

「概ね理解したが、世界神とはなんだ？それに、対価を教える」

「普通の神の事を、世界の監視者と言う。世界神とはその監視者の神、神様の神様じゃな。対価はな、わし等の仕事を手伝う事じゃ。内容はな、転生者を殺す事。ただし監視者が故意に転生させた者だけじゃ。監視者の違法な転生は世界に負担をかけるのじゃよ、まあわしらが何かをしても世界に影響が無い。世界を壊さん限りな。ちなみに、わしらやお前さんは別の世界の人物を別の世界に連れて行けるのじゃよ。」

転生者殺しかまあらくだな。

「了解した。だから、あの世界から出してくれ。」

兎に角あの世界から出たい。

「解つたのじゃ。じゃあ、早速で悪いがこの仕事を請けてくれ。終わったらすむ世界を選ぶようになるぞ。」

「了解した。初仕事は、成功して帰ってくるから安心して待ってな。」

笑いながら仕事がある世界へ向かっていった。

「そつえば、どうやって世界渡ればいいんだ・・・？」

蒼い光（後書き）

また駄文でした。

読んでくれた皆さんありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3491p/>

守護者・・・？

2011年10月7日20時57分発行